京都府立医科大学附属北部医療センター誌
第６巻の発刊にあたって

平成25年４月１日に京都府立医科大学附属北部医療センターとなって７年が過ぎようとしています。この間に元号も“令和”に変わりました。また、この巻頭言を書いている令和２年２月末は「新型コロナウィルス感染症 COVID-19」の拡大で日本中、世界中が対応に追われています。

そのような中、今回、「京都府立医科大学附属北部医療センター誌」第６巻が発刊される運びとなりました。京都府立医科大学の附属病院としての北部医療センターの役割として、診療・教育に加えて、“研究の充実”があります。大学附属病院の教員として重要なことは、自らが学んだことを学会発表や論文として公表していくことです。各部門での体制は不十分な面があり、多忙な日常診療の中で論文を書くことは多大な努力を要しますが、京都府立医科大学の各講座・部門と連携して、北部医療センターの診療および研究内容をより一層充実させ、「京都府立医科大学附属北部医療センター誌」に目に見える形で反映させて行きたいと考えております。

第６巻には、総説１編、原著４編、症例報告７編、看護研究１編、看護実践報告２編、研修医振り返り、CPC 報告など充実した内容となっております。総説は、病理診断科の井村徹也先生に「消化管神経システムの生理と病理」について書いて頂きました。原著および症例報告は、いずれも当院で経験されたことに基づいて書かれたものです。原著論文では、大腸 cold snare polypectomy（春里先生）、高齢者頚髄症の手術（細井先生）、重症心身障害児（者）の骨代謝（中島先生）、CT と化膿性脊椎炎（佐藤先生）の４編でいずれも当院の特色を出している内容となっています。初期研修医による２編を含む７編の症例報告も充実しています。

看護研究は、「硬膜外麻酔穿刺体位に関する予備的研究」（山口雄悟看護師）に関する研究内容です。看護実践報告は「リスクマネージャーの活動支援」（山口幸恵看護師）と「スタッフが能動的に活動する部署作り」（松田由佳看護師）の２編です。

当院での研修医生活を振り返った初期研修医の文章も楽しみです。

最後になりましたが、ご執筆頂いた皆様、ご多忙な中、第６巻の発行に向けご尽力頂いた編集委員の皆様に心より感謝申し上げます。

令和２年３月

附属北部医療センター　病院長　　中　川　正　法